

令和7年度 西東京市立芝久保小学校 学校自己評価表

領域		中期経営目標	番号	短期経営目標	具体的方策	努力目標		成果目標		アンケート	評価(%)	分析	改善策	学校関係者評価欄							
														評価	ご意見						
		<p>＜学校教育目標＞</p> <p>自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。自ら学び、自ら考え、元気で心豊かな思いやりのある児童の育成を目指す。</p> <p>○粘り強く考える子 自己の目標をもち、よく考え、他者の考えを取り入れて課題を解決し、学び続ける児童を育てる</p> <p>◎仲良くする子 生命の尊さや自他のよさに気づき、規範意識をもち、相互に思いやり、励まし合える児童を育てる</p> <p>○元気に活動する子 健康に留意し、規則正しい生活習慣を身に付け、運動に親しみ、すすんで心身を鍛える児童を育てる</p>				<p>＜目指す学校像・児童像・教師像＞</p> <p>『自らを律し、ともに学び合う児童の育成』～生きる力を育む～</p> <p>○目指す学校像 あったか先生のいる学校：4つの「あ」を大切に、心も体健やかに育ち、学習効果上がる学校「愛情」「安全・安心」「あいきつ・温かい言葉」「あひらき」</p> <p>○目指す児童像 自ら学び、確かな学力を身に付ける児童 自他の生命を尊重し、豊かな人権感覚をもつ児童 健康と安全に心掛け、体力の向上に努める児童</p> <p>○目指す教師像 教科指導や児童指導に専門的な力をもつ教師 児童理解を深め、児童の心を開く、信頼される教師 使命感と責任感をもち、研鑽に努める教師</p>												<p>学校関係者評価</p> <p>A・・・評価は適切である</p> <p>B・・・評価に一部改善が必要である</p> <p>C・・・全体的に改善が必要である</p>			
確かな学力の向上	教職員の指導力の向上	1学	芝久保学習スタンダードに基づいた指導の実施	本時の目標を基にめあてを示し、学習の見通しをもたせる。また、めあてに対するまとめや振り返りを行い、学習した内容を再確認させる。	4	週に5回以上実施	4	児童のできているという評価80%以上	めあてをもって学習に取り組んでいる。	94	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度以上にめあてをもって学習に取り組んでいる児童が増えた。また、9割以上の児童が授業はわかりやすいと答えている。 ・芝久保学習スタンダードに基づき、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業におけるめあてを示し、児童が学習の見通しをもって取り組めるようにしていく。また、めあてに対するまとめや振り返りを行い、学習内容の定着を図っていく。 ・校内研修、校内研究等を通して、指導力の向上に努めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き、個々のめあてをもって、学習に取り組めると良い。 							
					3	週に3～4回実施	3	児童のできているという評価70%以上													
					2	週に1～2回実施	2	児童のできているという評価60%以上													
					1	週に1回未満実施	1	児童のできているという評価60%未満													
		2学	自分の考えを深める指導の工夫	単位時間の学習過程を工夫し、児童が考えを深めることができる授業を展開する。また、協働的な学びの充実を図り、各教科の見方・考え方を働かせたり、広げたりすることができるようにする。	4	90%以上の教科及び単元で実施	4	児童のできているという評価80%以上	自分の考えをより良くしようとしている。	84	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用から、ペア学習、グループ学習によって考えを深めていくという観点に設問を変更してアンケートを行った。目標は達成することができた。 ・校内研究を進め、児童が考えを深めることを目指す授業実践を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートでは、難しい問題も諦めずと考えているという設問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合が低下している。児童が見方・考え方を働かせながら課題に取り組めるように、授業改善を続けていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションによって、相手の考えを認め、自分の考えを深めていくことは、今度も学んでいけると良い。 ・考えをすくに求めず、繰り返し考えて結論に向かう過程を学べると良い。 							
					3	80%以上の教科及び単元で実施	3	児童のできているという評価70%以上													
					2	70%以上の教科及び単元で実施	2	児童のできているという評価60%以上													
					1	70%未満の教科及び単元で実施	1	児童のできているという評価60%未満													
豊かな心の育成	生活指導・人権教育の充実	3健	異学年交流を通して、心豊かな思いやりのある児童の育成	ペア学年活動などの異学年交流を充実させ、互いに認め合い協力できる指導を実践していく。	4	月1回以上実施	4	児童のできているという評価80%以上	ペア学年活動などで、違う学年の友達とも仲良くしている。	83	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽会や読書月間等、行事とも絡めてペア班活動を検討することで、内容の幅を広げることができている。 ・班編成によっては、上級生の負担が大きい面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班編成の際に、児童の実態を考慮した班編成をペア学年の教員間で情報を連携しながら行う。 ・異学年との関わりを深めるために、ペア学年と関わる際の態度や言葉遣いを事前・事後指導をし、振り返らせるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・上下関係の交流は、社会生活で重要なので、推進して欲しい。 ・上級生も皆同じではないことを考慮することが必要である。 ・相手に合わせて伝えることの難しさを知ることができて、良い経験だと思う。(特に下の学年に) 							
					3	2か月に1回実施	3	児童のできているという評価70%以上													
					2	学期に1回実施	2	児童のできているという評価60%以上													
					1	学期に1回未満実施	1	児童のできているという評価60%未満													
		4学	児童一人一人を大切にしたい指導の実施	あったか先生を実践する。	4	90%以上の授業で実施	4	保護者の取り組んでいるという評価80%以上	西東京あったか先生として、児童一人一人を大切にしている。	95	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、「西東京あったか先生の取組」に関わる教員研修や、道徳教育、全員面談を通して学校で一貫した指導を行うことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談や学校生活アンケートを活用し、一人一人を大切にしたい指導に努めるとともに、引き続きあったか先生研修も行いながら、実践に努めていく。 	A								
					3	80%以上の授業で実施	3	保護者の取り組んでいるという評価70%以上													
					2	70%以上の授業で実施	2	保護者の取り組んでいるという評価60%以上													
					1	70%未満の授業で実施	1	保護者の取り組んでいるという評価60%未満													
健康で安全な学校生活	児童の健康と安全の増進	5健	健康に関する教育の啓発・指導の計画的な実施	手洗いや汗拭きタオル、ポケットティッシュの持参など、健康・安全についての指導を養護教諭と連携して行う。	4	毎日実施	4	児童のできているという評価80%以上	手洗いや汗拭きタオル、毎日汗拭きタオルやポケットティッシュを持参するなど、自分自身の健康に気を付けて生活したりしている。	86	<ul style="list-style-type: none"> ・手を洗う児童は多いが、ハンカチを忘れてしまい、洋服や髪の手で自分の手を拭いている児童が多くみられる。また、ポケットティッシュも使用頻度が低いため、持参する意識が低いことが現状である。 ・今年度は委員会活動で全校児童を対象にハンカチ調べを行い、ハンカチを持参するきっかけを作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防や衛生管理の面から、ハンカチやポケットティッシュを持参することの必要性や、手洗いについて、学校だよりやほげんだより、委員会活動などを活用し、児童や保護者に周知するとともに、担任からも声かけを行う。 ・手洗い場にハンカチが必要な理由や手をハンカチで拭かないことによる菌の増殖についての掲示物を貼る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンカチで手を拭く習慣が変化しているように思う。常にハンカチを持ち歩く習慣がつくと良い。 ・ハンカチを持ち歩く習慣がつく良さについて、考えられるようにする。 							
					3	週に4回実施	3	児童のできているという評価70%以上													
					2	週に3回実施	2	児童のできているという評価60%以上													
					1	週に3回未満実施	1	児童のできているという評価60%未満													
		6健	いじめの未然防止・早期発見・早期対応	いじめ防止に関する授業や教職員の研修を行う。また、いじめ調査や情報交換を定期的実施し、実態把握や対応に組織的に取り組む。ふれあい月間には、いじめ防止につながる取組を全校で実践する。	4	児童への授業と教職員の研修を合計年5回以上実施	4	保護者の取り組んでいるという評価80%以上	学校は、いじめ対応やいじめ防止について組織的に取り組んでいる。	88	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員への研修や年3回のふれあい月間での授業等の取組を通して、いじめに対する意識を高めることができた。 ・校内委員会にて情報を共有したり、学校生活台帳を積極的に活用したりすることで組織的に対応できた。 ・代表委員会が計画した、掲示物での呼び掛けや全校集会を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の学校生活アンケートについては、学年主任、生活指導主任、管理職と確実に共有し、スピーディーな対応に努める。 ・年度初めだけでなく、全教職員で「学校いじめ防止基本方針」を繰り返し確認していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する講演会に参加し、大人も人権について振り返る機会がもてると良い。 							
					3	児童への授業と教職員の研修を合計年4回実施	3	保護者の取り組んでいるという評価70%以上													
					2	児童への授業と教職員の研修を合計年3回実施	2	保護者の取り組んでいるという評価60%以上													
					1	児童への授業と教職員の研修を合計年3回未満実施	1	保護者の取り組んでいるという評価60%未満													
保護者や地域との連携	保護者・地域と動連の連携推進	7経	家庭や地域への積極的な情報提供	学校ホームページを適切に更新する。	4	学年や専科で1か月に2回以上更新	4	保護者の行っているという評価80%以上	学校は、ホームページを適切に更新している。	94	<ul style="list-style-type: none"> ・月に2回以上と計画を立てて毎月更新することができた。 ・すぐるで連絡を配信する際に、ホームページへのリンクを貼ったことで、保護者の方々がアクセスしやすいようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学年・専科で月2回以上と計画を立てて更新していく。 ・すぐるにリンクを貼ることも継続していく。 	A								
					3	学年や専科で1か月に1回更新	3	保護者の行っているという評価70%以上													
					2	学年や専科で2か月に1回更新	2	保護者の行っているという評価60%以上													
					1	学年や専科で学期に1～2回更新	1	保護者の行っているという評価60%未満													
		8健	誠実かつ迅速に対応する組織運営	教職員間での連携を密にし、保護者の質問や相談に誠実かつ組織的に対応する。学年間で対応について交流し、改善点を生かす。	4	事案発生直後	4	保護者の対応しているという評価80%以上	学校は、保護者からの相談に迅速・誠実に対応している。	95	<ul style="list-style-type: none"> ・「報連相記」を心掛けるとともに、その日の内に解決することへの意識が高かった。 ・学年主任を中心に、内容によっては、生活指導主任や管理職とも情報を共有できた。 ・発達についてや教育相談などの課題については、各学年担当のコーディネーターと共有し、校内委員会で検討した。また、SCやSSW等とも連携して組織的に丁寧な対応ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な対応を継続していく。 ・生活指導夕会を積極的に活用して、学校全体で指導にあたる。 ・学校生活台帳を活用し、長期的に振り返ることができるよう記録を残す。 	A								
					3	事案発生当日	3	保護者の対応しているという評価70%以上													
					2	事案発生翌日	2	保護者の対応しているという評価60%以上													
					1	事案発生2日以上後	1	保護者の対応しているという評価60%未満													
業務の改善・働き方改革	働き方改革の推進	9経	働きやすい環境づくり	学校の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）をSDGsや公費であることを意識して実施する。	4	週に1回以上実施	4	教職員の実施しているという評価80%以上	学校の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）をSDGsや公費であることを意識して実施している。	95	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の教材室整備を3年間やって来て、教職員の意識も高まったことで、整った環境を維持できた。 ・校務用パソコンのデータ整理も定期的呼びかけ、容量を削減できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き教材室整備やデータ整理を定期的に行う。 ・用務主事やシルバーも定期的に校内環境を整備していくようにする。 	A								
					3	月に2～3回実施	3	教職員の実施しているという評価70%以上													
					2	月に1回実施	2	教職員の実施しているという評価60%以上													
					1	月に1回未満実施	1	教職員の実施しているという評価60%未満													
		10経	教職員の「働き方改革」への意識の向上	「学校における働き方改革推進プラン」（市教委）をふまえて、平日の在校時間を10時間以内とする取組の一つとして、定時退勤日を各自設定、実施する。	4	月に4回以上	4	定時退勤を月4回以上しているという評価80%以上	月に4回以上、定時退勤をしている。	47	<ul style="list-style-type: none"> ・事務的な作業を減らしたり、1、2学期の所見を減らしたりと校務軽減の工夫をしてきたが、評価が下がった。 ・教材研究などに時間を費やしたい教職員もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何が教職員の負担になっているのかを調査するなどして、時刻ではない別の働き方改革の指標を作る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない働き方ができるように少しずつ改善されると良い。 ・仕事量を減らすだけではなく、先生方が仕事への充実感をもてることが重要。 							
					3	月に3回	3	定時退勤を月4回以上しているという評価70%以上													
					2	月に2回	2	定時退勤を月4回以上しているという評価60%以上													
					1	月に1回以下	1	定時退勤を月4回以上しているという評価60%未満													